

## 大学における初年次教育の動向

—山形大学におけるスタートアップセミナー(導入科目)の取り組みを中心に—

山形大学人文学部 立松 潔(基盤教育実施会議議長)

### 1. 山形大学の教養教育改革(平成22年度実施)

#### (1) 基盤教育と専門教育

平成21年度まで=教養教育と専門教育は学士課程教育の2本柱

平成22年度以降=基盤教育は学士課程教育の基盤

#### (2) 基盤教育の目的

- ① 学問の実践に必要な基本的能力を身につける・・・課題発見探求能力など
- ② 幅広い教養=知識を身につける
- ③ 学習への基盤となる力(学習スキル)を養う
- ④ 良識ある市民としての力を育む

(1) 教養教育(平成21年度まで)		(2) 基盤教育(平成22年度より実施)	
一般教育科目	文化・行動領域	導入科目	スタートアップセミナー(新設)
	政経・社会領域	基幹科目 (新設)	共生を考える
	学際・総合領域		人間を考える
	生命・環境領域	教養科目	文化と社会、自然と科学、 応用と学際、山形に学ぶ(新設)
	数理・物質領域	共通科目	サイエンススキル
健康・スポーツ領域	健康・スポーツ		
外国語科目	英語		コミュニケーション・スキル1(英語)
初修外国語・日本語	コミュニケーション・スキル2(初修外国語)		
情報処理教育科目		情報リテラシー	
		展開教育科目(高年次開講、新設)	

### 2. 教養教育改革の背景および趣旨

#### (1) 一般教育科目の問題点

- ① 教員による授業テーマの自由な設定(教えたいことを教える)
  - コアとなる科目(大学としてのポリシー)の不在
- ② 学生による自由な授業選択(学びたいことを学ぶ)・・・ただし領域ごとの履修制限あり
  - 科目選択の偏り(履修者数のアンバランス)
  - ★ コマ数では全体の1割に過ぎない履修者数250名以上の大人数の授業が、履修登録者では全体の25%を占める

#### (2) アラカルトメニューから定食メニューへ(結城学長)→導入科目、基幹科目の新設

★「教員が教えたいことを自由に教え・学生は学びたいものを自由に選ぶ」教育から「学生が学ぶべきことを教える」教育へ＝前者を**教養科目**として残し、後者として**導入科目**と**基幹科目**を開設

現在の教養教育で開講されている700科目ぐらいを見ていきますと、**先生が教えたい科目が並んでいる**ような気がするのです。私は学生が学ぶべきことがあるのではないかと考えています。現在は、たくさんの科目の中から自分で選択し、自分でメニューを作る、**アラカルトメニュー**になっているわけです。非常に柔軟でいいというメリットもあるわけですが、一方でどうしても自分の興味本位に流れがちで、栄養の偏りが生ずる恐れがあると心配しています。やはり大学としてこれはどうしても学んでほしいという、いわば**定食メニュー的なものを作って責任をもって提供する**ということも必要なのではないかと考えていまして、今の2点から山形大学の教養教育のカリキュラムを見直してほしいということで、その作業をこれまでやっていただいたわけです。（『みどり樹』42号、2009年冬号の結城学長の発言）

### (3) 教養セミナーの限界とスタートアップセミナーの開設

#### 教養セミナー（一般教育科目）による初年次導入教育とその限界

「山形大学のあるべき姿」（平成13年、評議会決定）・・・教養セミナーの充実による初年次導入教育の充実を提言。しかし、

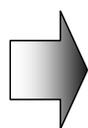
★教養セミナーは学生による選択の自由の尊重を前提にしているため、多くの学生が未履修。履修して欲しい学生が履修しないという問題（下表、教養セミナー実態調査参照）。

★教員が自由にテーマ・内容を設定する教養セミナーでは、導入教育に共通な課題への十分な対応が困難。

平成17年度教養セミナー実態調査

(1) 教養セミナー履修状況			(2) 教養セミナーを履修しなかった理由			
履修状況	履修実数	構成比	順位	理由	実数	構成比
履修せず	902	61.0%	1	興味ある教養セミナーがなかったから	419	46.5%
1コマ履修	307	20.8%	2	報告や発表が苦手だから	328	36.4%
2コマ履修	170	11.5%	3	履修制限や時間割の関係で履修できなかった	177	19.6%
3コマ履修	44	3.0%	4	レポートを書くのが苦手だから	140	15.5%
4コマ履修	56	3.8%	5	少人数だと勉強が大変そうだから	135	15.0%
それ以上	0	0.0%	6	人数調整のため受講できなかった。	84	9.3%
合計	1479	100.0%	7	同じような少人数の科目を受講したから	11	1.2%
合計					902	100.0%

出所：平成17年度教養セミナーアンケート調査（2006年1月実施）



基盤教育として導入科目（スタートアップセミナー）を新設、共通テキスト作成

### 3. 導入科目（＝スタートアップセミナー）とは

#### (1) スタートアップセミナーの特徴

- ① 必修科目として開講
- ② 学部・学科別に開講

クラス規模、「授業のねらい・目標」の重点の置き方は学部・学科の自由裁量

#### (2) スタートアップセミナーのねらいと目標（シラバスの全学共通部分）

★ねらい

1. 卒業後の自分を見据え、大学の4年間の学習イメージを確立する。
2. 具体的なテーマに取り組むことを通じて、課題探求能力を養う。
3. 実習を通じ、大学で学ぶための基礎的な技法(情報収集、口頭発表、グループワーク、レポート作成)を習得する。

#### ★目標

1. 山形大学や学部・学科の特色について理解を深めるとともに、4年間の学生生活と卒業後の自分についてイメージを描けるようになる。
2. 自分の関心のあるテーマを設定し、情報・資料収集を行い、レポートを作成し発表できるようになる。
3. グループで共通のテーマに取り組み、討論や議論を通じて理解を深めたり、共同でレポートをまとめたりできるようになる。
4. 文献・資料を理解し読み込む力(読解力)を身につける。

#### 【テキスト】

★山形大学基盤教育院編『スタートアップセミナー学習マニュアル なせば成る!』山形大学出版会

#### (3) 学部別スタートアップセミナー開講状況

学部	クラス数	学生数	同クラス当
人文	20	322人	16人
地域教育文化	12	254人	21人
理	5	192人	38人
医	2	185人	93人
工	12	594人	50人
農	3	165人	55人
合計	54	1712人	32人
平成22年度実績			

#### (4) 共通テキスト「なせば成る!」目次

はじめに 大学で学ぶということ

1. 大学における学び
2. スタートアップセミナー  
—そのねらいと目標

#### 1章 学びの技法

1. 読解力・傾聴力を身につける
2. 作文力を高めよう!
3. 文の書き方の原則
4. 授業ノートのとり方

#### 2章 プレゼンテーションを学ぶ

1. プレゼンテーションの基礎
2. 話しの組み立て方
3. 論理性が大切
4. 話し方のテクニック
5. 非言語表現の工夫
6. 効果的なスライドを作るには
7. 聞き手本意の資料と演出
8. 質疑応答で説得力アップ

#### 3章 グループで学ぶ

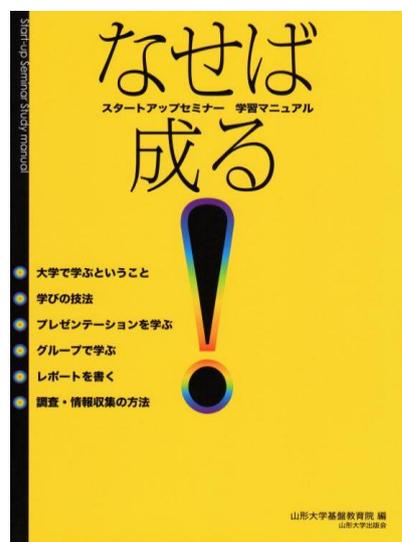
1. ワークショップを楽しむ
2. ロールプレイの魅力
3. デイバートへの挑戦
4. デイバートの流れ

#### 4章 レポート(論文)を書く

1. レポートとは?
2. 主題を考える
3. 構成を考える
4. 本文の執筆
5. 引用と参考文献

#### 5章 調査・情報収集の方法

1. 調査・情報収集の方法
2. ネットで調べる
3. 情報収集と情報倫理
4. 情報収集の実践・辞書と図書
5. ネット検索と実地踏査



編 者: 山形大学基盤教育院  
発行所: 山形大学出版会  
ISBN: 978-4-903966-05-2

#### 学習スキル中心の内容として編集

スタートアップセミナーのテキストとしてだけでなく、学生の個人学習用としても、あるいは他の授業でも活用可能。

★マスコミはもっぱら「書き方講座」として報道



(5) 学習スキル重視の背景 — 作文能力低下と苦手な発表 —

- ① 択一問題中心の受験勉強、携帯・パソコン時代の落とし穴  
作文能力の格差拡大・漢字力低下
- ② 口下手に寛容な日本文化とマスプロ教育の限界  
少ない発表や討論の機会(実戦経験の不足)
- ③ 不足する指導者・指導ノウハウ

★しかし、民間企業の採用はコミュニケーション能力重視!

(6) 教員用実践マニュアル『なさねば成らぬ!』

学習スキル教育のノウハウ提供  
テキスト『なせば成る!』の構成に沿って解説。  
→ 演習課題等を例示。

5. スタートアップセミナーを実施して

(1) 学部による重点の置き方の違い(図表1)

- ◆ 人文、地教、工学部・・・プレゼンテーション能力など学習スキル重視
- ◆ 理、医学部・・・学部学科の特色や専門教育に関する理解を重視

(2) 学生は同級生との人間関係を深める場として高く評価(図表2)

- ◆ 人文・地教・・・レポート作成、調査・情報収集への理解が高まったとの評価が高い。
- ◆ 理・医・工・農・・・所属する学部・学科への理解を深めることができたとの評価が高い。



図表1 スタートアップセミナー 授業担当教員アンケート集計結果

スタートアップセミナーで特に重視した内容(3つ選択)							
質問項目	学部						
	計	人文	地教	理	医	工	農
学生のプレゼンテーション能力を向上させる。	31	16	7	1	0	6	1
共同作業能力、チームワーク能力を向上させる。	23	10	3	2	1	6	1
学生のレポート作成・文章作成能力を向上させる。	20	6	4	1	1	6	2
討論や議論をする能力を向上させる。	16	10	1	0	0	3	2
学部・学科の特色や専門教育に関する理解を深める。	13	1	2	4	2	3	1
課題を見つけ探求する能力を向上させると。	13	6	2	0	0	2	3
文献・資料を理解し読み込む力を向上させる。	11	4	4	0	1	1	1
情報・資料収集の能力を向上させる。	9	1	2	2	0	0	4
キャリア形成に関する理解を深める。	8	0	1	1	1	3	2
回答者合計	49	18	9	4	2	10	6

図表2 スタートアップセミナー 学生アンケート集計結果

設問に対する肯定的回答(「はい」と「まあそうである」)の割合			
設問	学部区分等		
	合計	人文・地教	理・医・工・農
この授業によって同級生との人間関係や協力関係を深めることができましたか？	73.9%	83.7%	69.1%
この授業は大学での勉強の仕方を学ぶために有意義でしたか？	67.5%	76.2%	63.1%
この授業によって自分が所属する学部・学科についての理解を深めることができましたか？	64.3%	53.3%	69.7%
この授業によって調査や情報収集の方法について理解が深まりましたか？	59.8%	71.9%	53.8%
この授業によってグループでの議論・討論や共同作業に慣れることができましたか？	59.6%	68.8%	55.1%
この授業によってレポート作成の方法について理解が深まりましたか？	59.6%	73.0%	56.1%
この授業によって人前での口頭発表(プレゼンテーション)に慣れることができましたか？	48.2%	63.1%	40.8%

図表3 スタートアップセミナー授業改善アンケート結果(5点満点)

点数は以下の質問に対する回答の5段階をもとに算出  
5:はい 4:まあそうである 3:どちらとも言えない 2:あまりそうとは言えない 1:いいえ

質問内容		全学	人文・地教	理・医・工
質問1	この授業を意欲的に受講しましたか。	3.96	3.97	3.93
質問2	内容を理解できましたか。	4.02	4.05	3.96
質問3	考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがありましたか。	4.20	4.27	4.07
質問4	シラバスに授業の目標や授業計画は具体的に示されていましたか。	3.96	4.01	3.85
質問5	シラバスに成績評価基準と評価方法は具体的に示されていましたか。	3.91	3.98	3.79
質問6	教員に熱意は感じられましたか。	4.26	4.31	4.16
質問7	教え方(教授法)はわかりやすかったですか。	3.98	4.01	3.91
質問8	教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていましたか。	4.13	4.28	3.87
質問9	授業はよく準備されていましたか。	4.14	4.16	4.10
質問10	教員の話し方は聞き取りやすかったですか。	4.19	4.26	4.06
質問11	板書や配布物、資料提示は読みやすかったですか。	4.13	4.17	4.05
質問12	教員は教室内に良好な勉学の環境を保つよう配慮していましたか。	4.15	4.20	4.06
質問13	この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか。	4.10	4.15	4.01

注: 授業改善アンケートを実施した42の授業の集計結果

★質問8(教員とのコミュニケーション)において、クラスサイズの大きな理・医・工学部と小さな人文・地域教育文化学部とでは学生の評価に大きな差が生じた。

★質問13(総合満足度)の結果(4.10)は教養科目の平均(4.17)をやや下回った。